〈茨城新聞ホームページ〉　http://ibarakinews.jp
〈購読申し込み〉　フリーダイヤル（0120）029218

地域総合

モバイル茨城新聞配信中
（月額315円）

被災地の児童生徒の学習支援に取り組むNPO法人リヴォルヴ学校教育研究所の小野村哲理事長（左）ら＝つくば市二の宮

つくばの学習支援NPO

特製ノート、被災地へ

1万冊無償提供　印刷製本も福島で

不登校児や学習障害児に学習支援を行うつくば市のNPO法人「リヴォルヴ学校教育研究所」（小野村哲理事長）が、独自の工夫を加えた英語のけい線ノート1万冊を東日本大震災の被災地の児童生徒に無償提供する支援に取り組んでいる。ノートは全て福島県内で印刷・製本し、〝教材の地産地消〟で被災地域の活性化にも貢献したい考え。

同研究所はフリースクール「ライズ学園」（同市谷田部）を運営。読み書きが困難な先天性障害、発達性ディスレクシアの児童生徒向けに教材の開発や学習支援なども行う。

今回のノートも、生徒らが正しく読み書きできる工夫を加えているのが特徴。文字を正しい位置に書き込めるよう4線内をブルーグレーに着色し、bとp、dとqなど似ている文字を書き間違わないこつもまとめた。

また、各ページに単語のつづりと発音の規則性を示したほか、単語や文章を書く際のルールを記載したり単語間の目安となるドットを打ったりした。

ノートは計3万冊作製。全て福島県郡山市の印刷会社「おの印刷」で印刷製本した。小野村理事長は「ただ物資を送るだけでなく、教材の地産地消を実現することで被災地で新しい経済循環を作り出せれば」とその狙いを語る。

3万冊のうち1万冊は岩手、宮城、福島、本県の市町村教委や学校を通じて中学生に無償配布。2万冊は被災地以外からの申し込みも受け付け、1冊200円で販売する。学校納入価格も別に設け、必要経費を差し引いた利益は被災地の教育環境の整備に役立てる。

また、英語の不規則動詞を学べる冊子1万冊も無償提供し、小中学生用英語学習ソフトウエアの3年間無償貸しも行う。

小野村理事長は「復興は1、2年で終わる問題じゃない。地域の活性化につながるよう現地と連携を取りながら今後も支援を行っていきたい」と話す。

同研究所は活動に賛同してくれる支援者も募集中。問い合わせは同研究所☎029（856）8143。ホームページからの注文も可能。http://rise.gr.jp/

（戸島大樹）

佐都小　瑞竜小　河内小

閉校、学びやに別れ

式典に地域住民も参加

常陸太田

本年度末で閉校する常陸太田市立佐都、瑞竜、河内小学校の記念式典が24日、各校の体育館で開かれた。校歌斉唱に続き、児童の成長を見守ってきた校旗が返納され、地域とともに歩み続けた歴史に幕を閉じた。また、保護者や地域住民らが事業に取り組み、記念碑の除幕や風船を空に飛ばすなどして、新たな思い出を胸に刻んだ。

佐都小（茅根町）は1873（明治6）年8月創立。東日本大震災で施設が被災し、子どもたちは河内小で1年間、生活を送ってきた。圷宏寿校長が「母校を離れたことで、思いが一層深くなった。新しい学びの場でも頑張っていける」とあいさつ。児童代表の武藤広大君（6年）は「見守ってくれた学校に感謝したい」と述べた。

瑞竜小（瑞龍町）は同年12月創立。岩間敦子校長が「瑞竜小はなくなっても、瑞竜っ子魂は永遠に続く」とあいさつ。全校児童55人が「たくさんの人に支えられ、自分をごまかさないで生きることを学んだ」と別れの言葉を述べ、岩間校長らが「元気なあいさつ、思いやりの心を忘れないで」などと、はなむけの言葉を贈った。

河内小（町屋町）は1981（昭和56）年4月創立。小野司寿男校長が「子どもたちの生活環境は大きく変わるが、それぞれのやり方で困難を一つ一つ乗り越えてくれると信じている」とあいさつ。児童代表の檜山淩祐君（5年）は「河内小があったことで、思い出がたくさんできた。新たな一歩を踏み出します」と決意を述べた。

3校の記念式典に出席した大久保太一市長は「地域には素晴らしい自然と歴史、コミュニティーがある。新しい学校でもこれらの資産を生かしてほしい」と期待を込めた。

児童数の減少に伴い閉校となった佐都、河内両小は新年度から機初小に、瑞竜小は誉田小にそれぞれ統合される。

（谷津馨）

閉校記念碑を除幕する児童と大久保太一市長ら＝常陸太田市立佐都小

岩間敦子校長（手前左）をはじめ教員に感謝の花束を贈る児童ら＝常陸太田市立瑞竜小

保護者らが見守る中、全校児童そろって校歌を斉唱＝常陸太田市立河内小

５つの専門学校が高校生向けに
開いた合同説明会＝水戸市宮町

5専門学校が進学説

体験通し特色

県内の専門学校5校でつくる連携組織「いばらき専門カレッジリーグ」は23日、来年3月卒業予定の高校生を
対象に体験型の合
学説明会を水戸市
の水戸駅ビル「エ
ル」で開き、来場
高校生がデザイン

飯塚和秀さん個展

28日までひたちなか

美術団体「一水会」などで活躍する水戸市在住の洋画家、飯塚和秀さんの5年ぶりとなる個展「第3回飯塚和秀油絵展」が28日まで、ひたちなか市笹野町のギャラリーエスパースで開かれている＝写真。飯塚さんが長年追い続けるのは、漁港や漁村で雨や潮風にさ
らされ、朽ちてい
の姿。作品には、
がはがれ落ちた古
屋や、さびの目立
体が歴史を物語る
などが描かれてい
古きものと真っ向
向き合ったような
群は、人々の暮ら
風土が刻まれた
輪〟に敬意を払っ
るかのよう。

結城市人事（4月1
◇部長級▽市長公
（教育委員会教育次長
田明久▽市民生活部長
健福祉部次長兼介護福
長兼地域包括支援セン
所長）山田満▽都市建
長（都市建設部次長兼
立地推進課長）久保野
男▽上下水道部長（市
室参事兼総務課長兼政
整員）石塚安男▽会計
者兼会計課長（市長公
事兼秘書課長）宮本敏
教育委員会教育次長（
委員会参事兼学校教
長）滝澤正好▽理事兼
委員事務局長（市長公
事兼次長兼契約管財課
佐藤善勝▽市長公室次
総務課長兼情報化推進
兼政策調整員（教育委
ゆうき図書館長）落合
▽市長公室次長兼企画
課長兼政策調整員（市
室企画政策課長兼政策
員）久保野谷一成▽保
祉部次長兼介護福祉課
地域包括支援センター
（市長公室次長兼財政
兼政策調整員）柴山孝
都市建設部次長兼都市
課長（都市建設部次長
市計画課長兼開発指
長）谷沢忠▽市長公室
兼秘書課長（教育委員
会体育課長）萩原雄二